

コナジラミ類情報第2号（トマト）

令和6年10月4日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ほ場でのコナジラミ類や黄化葉巻病の発生状況に注意しましょう

1 発生状況及び今後の発生予測

9月下旬に行ったトマト（施設）の巡回調査（11ほ場調査）において、コナジラミ成虫の寄生枝率は2.64%（平年3.31%、前年2.18%）で過去10年間と比較して4番目に高い状況です。発生ほ場率は27.3%（平年32.8%、前年27.3%）で、過去10年間と比較して9番目とやや少ない状況です。しかし、既にコナジラミ類の多発ほ場も確認されています。

また、タバココナジラミによって媒介されるトマト黄化葉巻病の発生株率は1.27%（平年0.79%、前年0.18%）で過去10年間と比較して4番目に高く、発生ほ場率は27.3%（平年24.6%、前年18.2%）で過去10年間と比較して5番目です。

名古屋地方气象台10月3日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高いと見込まれており、コナジラミ類の発生に好適な状況が続く可能性があります。ほ場での発生状況に注意しましょう。

2 防除対策

- (1) 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展張しましょう。設置してあるハウスについても、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無いか点検し、必要に応じて補修しましょう。
- (2) ほ場内やほ場周辺の雑草は増殖源になるため除去しましょう。
- (3) 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、成虫を捕殺しましょう。
- (4) 多発すると防除が困難になるので、発生初期に表を参考に薬剤防除を徹底しましょう。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避けましょう。また、薬剤抵抗性の発生リスクが低い気門封鎖剤等も活用しましょう。
- (5) 花粉交配用昆虫や天敵昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して農薬を選定しましょう。
- (6) タバココナジラミはトマト黄化葉巻病の病原ウイルスを、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルスを媒介します。ウイルスの感染株は見つけ次第抜き取り、適切に処分しましょう。トマト黄化葉巻病については、耐病性品種であっても保毒して感染源となり得るため、感受性品種と同様にコナジラミ類の防除を行いましょう。

表 トマト、ミニトマトにおけるコナジラミ類の主な防除薬剤

作物名	農薬名	使用回数	IRAC コード
トマト	ベストガード水溶剤	3回以内	4A
	モスピラン顆粒水溶剤	3回以内	4A
	アグリメック	3回以内	6
	アニキ乳剤	3回以内	6
	コルト顆粒水和剤	3回以内	9B
	アプロードエースフロアブル	3回以内	21A, 16
	ベネビアOD ^{※1}	3回以内	28
	トランスフォームフロアブル	2回以内	4C
	ディアナSC	2回以内	5
	グレーシア乳剤	2回以内	30
	サフオイル乳剤	—	— (気門封鎖) ^{※2}
	サンクリスタル乳剤	—	— (気門封鎖) ^{※2}
	ベミデタッチ ^{※3}	—	— (成虫忌避)
ミニトマト	ベストガード水溶剤	3回以内	4A
	モスピラン顆粒水溶剤	3回以内	4A
	アニキ乳剤	3回以内	6
	コルト顆粒水和剤	3回以内	9B
	ベネビアOD ^{※1}	3回以内	28
	トランスフォームフロアブル	2回以内	4C
	ディアナSC	2回以内	5
	グレーシア乳剤	2回以内	30
	サフオイル乳剤	—	— (気門封鎖) ^{※2}
	サンクリスタル乳剤	—	— (気門封鎖) ^{※2}
ベミデタッチ ^{※3}	—	— (成虫忌避)	

花粉交配用昆虫に影響がある剤が含まれるので注意しましょう。

成分ごとの総使用回数に注意しましょう。

※1 シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数は、4回以内(定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)。

※2 気門封鎖剤は、散布液がコナジラミ類に直接かかると効果がないため、丁寧に散布しましょう。

※3 ベミデタッチは、殺虫効果はなく成虫に対する忌避効果が主体です。7日間隔で複数回散布する必要があります。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示します。

IRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/lab0/mechanism/mechanism_irac03.pdfを参照。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。